

なまえ 生江文庫目録が完成しました

所蔵：両校地図書館参考室

請求記号：028.369 D9477



1. 生江文庫の性格と由来

今出川図書館には生江文庫と呼ばれるコレクションがあります。これは戦前の社会事業文献を中心とする「知る人ぞ知る」コレクションです。この文庫は“日本の社会事業の父”と呼ばれ、日本女子大学教授でもあった生江孝之氏から同志社大学に蔵書約2,700冊（図書2,424タイトル、逐次刊行物268タイトル）を寄贈されたものです。

これら資料の特徴としては、社会事業関係の資料を中心に、キリスト教、政治経済、統計、婦人問題、禁酒禁煙、農村問題、貧困問題など多方面にわたりますが、なかでも特筆すべきは、教会や、内務省の調査資料、統計文献の小冊子が多数ある点です。これらは全国的にも本学しか所蔵の無いものもあり、社会事業の先駆者であり、実践者であった生江孝之でなければ収集できなかったものといえます。また、資料には入手年月日、地名の他、多数の書き込みが見られ、生江自身の活動の足跡もうかがい知ることができます。



生江の書き込みのある資料
The science of penology【今出川貴重室 326.4 B4】

同志社大学図書台帳には昭和20年4月から受入れの記載がありますが、爾来50年を超える年月を経て、昨年にはデータ入力の完了、そしてこのたび、『生江文庫目録』を発行する運びとなったのです。本目録は同志社大学目録規則に基づく分類順で配列し、巻末には書名と著者名の索引を付けました。一番ヶ瀬康子氏（長崎純心大学教授・日本女子大学名誉教授）室田保夫氏（関西学院大学教授）による解説のほか、生江孝之年譜を収録しています。

2. 生江孝之の生涯とその業績

慶応3（1867）年仙台に生まれ、キリスト教の伝道者を志して上京し、青山学院の前身である東京英和学校に学びました。北海道で伝道にあたった後、再び上京して青山学院神学部に入學、山室軍平らとの出会いもあって社会事業への関心を強めます。

明治33（1900）年に渡米、社会事業を学び、さらにボストン大学で社会学、神学を修めました。欧米の社会事業を視察した後、内務省囑託となり、日本における社会事業の成立、進展に貢献しました。単に学問、理論にとどまらず、とくに児童保護、麻薬中毒者の救護、監獄の改良などに尽力しました。「社会事業の父」と呼ばれる所以です。

また、日本女子大学ほか多数の大学で教鞭を執り、多くの社会事業家の育成にも力を注ぎました。前述の一番ヶ瀬康子氏は最後の教え子にあたります。

代表的な著書としては、『社会事業綱要』『日本基督教社会事業史』等があります。

3. 生江孝之と同志社

ではどのような縁でその貴重な蔵書が同志社に寄贈されたのでしょうか。生江は日本女子大学教授であったわけですから、本来ならば日本女子大学図書館に寄贈があっても不思議ではありません。

この背景には、社会事業界・社会福祉界における同志社の深い水脈が横たわっている事実があります。

明治20年代、北海道の集治監*では、重罪人を教化するためにキリスト者が教諭師として採用されていました。最初に採用された原胤昭が、多くの囚人の教化に成果を上げると、キリスト教の教諭師の採用が本格的に始まりました。次に留岡幸助（1864-1934 同志社英学校別科神学課卒業。家庭学校創立。）が招聘され、その後留岡の尽力で、同志社

*明治時代 旧刑法監獄則による内務省直轄の刑務所



後列左から山室軍平、留岡幸助、有馬四郎助

前列左から原 胤昭、村松淺四郎、生江孝之

で神学を学んだ人々が次々と招聘されました。大塚 素、水崎基一、牧野虎次（1871-1964 同志社神学校卒業。第11代同志社総長。）のほかに有馬四郎助らを加え「北海道バンド（樺戸グループ）」と称しました。明治27（1894）年、生江孝之は北海道の樺戸教会へ赴任し、このグループと出会うのです。

また、青山学院神学部生だった明治29（1896）年には、救世軍の発会式で山室軍平（1872-1940 同志社普通学校入学。救世軍による廃娼運動を展開）と村松淺四郎に会い、その事業創立の動機と苦心には深く感激したと述懐しています。

留岡は犯罪の根源を絶つための感化事業、山室は救世軍（貧困廃絶）に力を尽くしました。こうした社会事業の先覚者たちと志を同じくする生江孝之との友情が生涯にわたり育まれていったのです。

このような背景があって、後に社会事業関係の資料を同志社へ寄贈することとなったのではないかと推測されます。この件については、室田氏が解説で詳細に述べています。

4. さまざまな助言と協力

本編はデータがありますが、解説については文学部の黒木保博、岡本民夫、井岡 勉各先生に仲介の労をとっていただき、一番ヶ瀬康子氏、室田保夫氏にお願いすることができました。

問題は、口絵写真でした。『生江孝之君古稀記念』にある

生江孝之とその友人たちの写真は、生江と同志社の関係を語る上でも、是非使用したいと考えましたが、原版の所在すらわかりませんでした。著作権台帳、インターネットなどで、それぞれのご遺族の連絡先を調べていく中で、多くの方々から情報の提供がありました。原 胤昭氏のご遺族が写真の原版を所蔵されていることも判明し、使用のための貸出を快諾していただきました。生江孝之の孫の生江 明氏（日本福祉大学）には、年譜を作成するにあたって、戸籍に遡って調査をしていただくと共に、生江夫妻の貴重な写真も提供していただきました。

このように、有形無形の多くの援助によって『生江文庫目録』を完成することができたのです。

5. 生江文庫の利用について

この『生江文庫目録』発行により生江文庫の全容を示すことで、蔵書を託された同志社大学としての責任の一つを果たすことができたと考えています。そして、この生江文庫が今後の社会事業、社会福祉の研究に少しでも役立つことを願っています。

生江文庫は今出川図書館の貴重室で保管されています。利用を希望する場合は、今出川図書館のメインカウンターで所定の手続きを取ってください。

『生江文庫目録』は事業課にて販売しています。